



テーマ：認知症とは

誰でも年齢とともに、もの覚えが悪くなったり、人の名前が思い出せなくなったりします。こうした「もの忘れ」は脳の老化によるものです。しかし、認知症は「老化によるもの忘れ」とは違います。認知症は何かの病気によって脳の神経細胞が壊れるために起こる症状や状態をいいます。

こんな症状が続いていたら認知症かもしれません



同じ話を何度も繰り返す



おしゃれに気を使わなくなった



失敗が多く、言いわけするようになった



怒りっぽくなった



慣れているはずの行動ができなくなった



物事に対して関心がなくなり投げやりになった



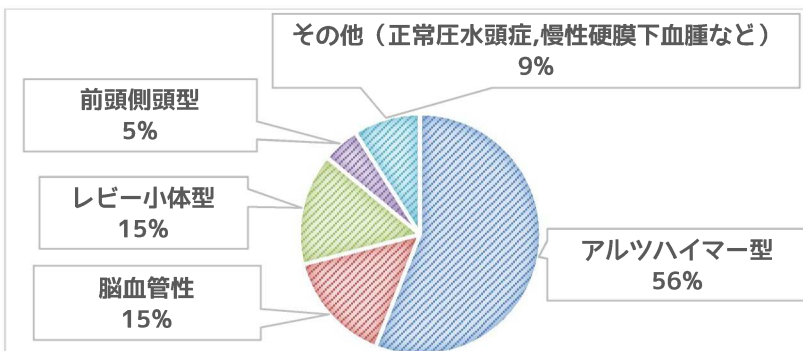
人づきあいを避け、閉じこもりがちになった



「あれ」「これ」などの代名詞が多くなった

認知症の初期では、物忘れが多くなったことを本人も自覚していて「頭が変になった」「何かがおかしい」などと感じ始めています。そういった不安な気持ちからイライラがつのり怒りっぽくなる人もいます。

主な認知症の種類と特徴

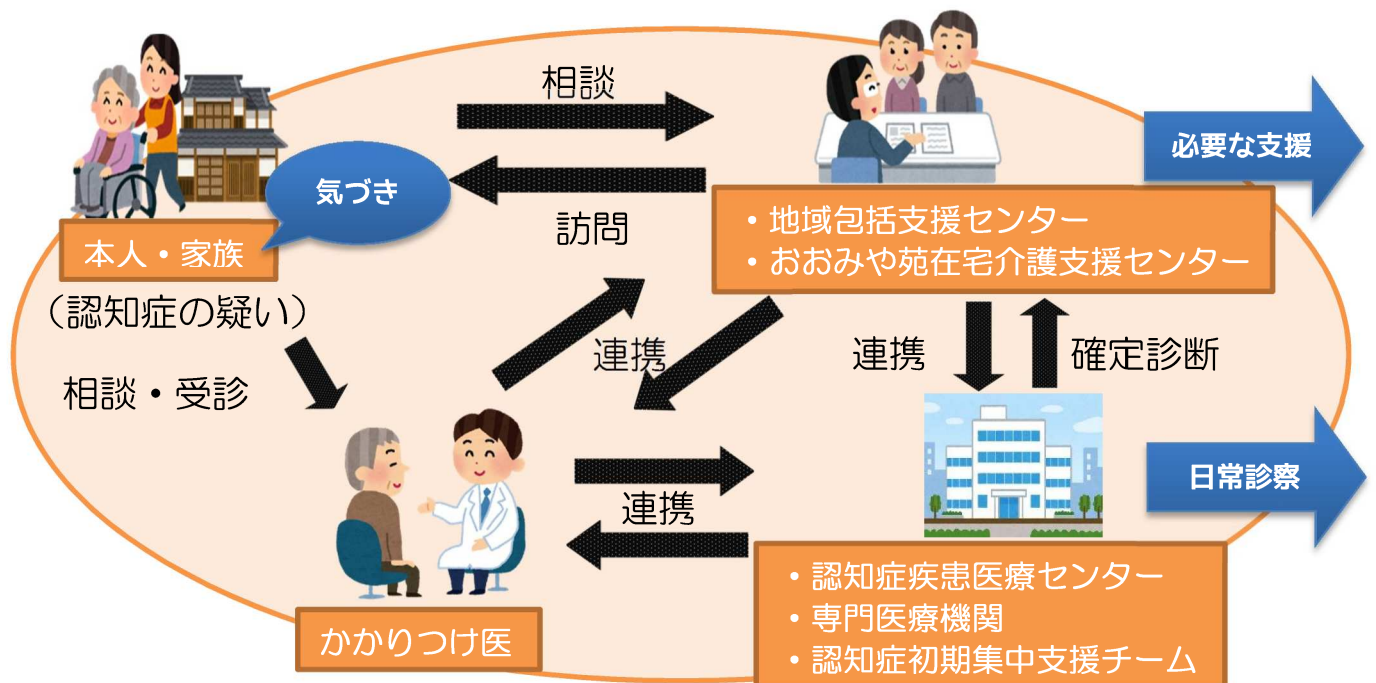


認知症のなかには、早期に治療を受ければ治る病気もあります。「認知症は治らない」などと思いついてしまうと発見が遅れ、治療も遅れてしまいます。気になる症状が見られたら、まずはかかりつけ医に相談し、認知症の専門医の診断を受けることを検討しましょう。

	アルツハイマー型	レビー小体型	脳血管性型
脳の変化	脳の神経細胞の外側に異常なたんぱく質が広がっていくことによって神経細胞が死滅し脳が萎縮する	レビー小体という特殊なたんぱく質が脳に蓄積し脳の側頭様や後頭葉が萎縮する	脳梗塞、脳出血などが原因で脳の血液循環が悪くなり脳の一部が死んでしまう
特徴的な症状	<ul style="list-style-type: none"> ・認知機能障害（もの忘れ等） ・もの盗られ妄想 ・徘徊 ・とりつくろい など 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知機能障害（注意力、視覚等） ・幻視、妄想 ・うつ状態 ・パーキンソン症状 ・睡眠時の異常言動 ・自律神経症状 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知機能障害（まだら認知症） ・手足のしびれ、麻痺 ・感情のコントロールがうまくいかない など

認知症にはさまざまな症状があります。「何かおかしい」と感じていても医療機関の受診をためらうご家族や認知症の人は少なくありません。ひとりで抱え込まず、誰かに相談してみてください。

相談先を見つけましょう



市区町村に設置されている「地域包括支援センター」では、主任ケアマネジャー、保健師、社会福祉士などの専門職が連携をとりながら、地域に住む高齢者への総合的な支援や情報提供などを行っています。

～おわりに～

認知症の症状や人の気持ちを理解するのはとても難しいことだと思います。医療・介護・福祉サービスをよく知って上手に利用し、認知症に関する正しい知識を持つことが大切です。落ち着いた良い介護をすると認知症の症状も軽くなると言われています。

「おおみや苑 在宅介護支援センター」はご自宅で生活しておられる高齢の方が、住みなれた地域で安心して暮らしていただくための相談窓口です。ひとりで抱え込まずにお気軽にご相談下さい。